

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

プレスリリース

2024年1月15日

報道関係者各位

インパクト志向金融宣言
事務局：一般財団法人社会変革推進財団

インパクト志向金融宣言 2年間で署名が3.5倍、74機関へ
宣言の下でインパクトファイナンス残高3倍弱 10兆7,240億円
2024年、アセットオーナー向けの取り組みを強化

2021年11月、21の金融機関による署名で発足したインパクト志向金融宣言（事務局：一般財団法人社会変革推進財団、以下「SIIF」）は、2年目の活動及び進捗を取りまとめた「インパクト志向金融宣言 プログレスレポート2023」（以下、「プロGRESレポート」）を本日発行しました。

インパクト志向金融宣言は、銀行、保険会社、運用機関、ベンチャーキャピタル等の様々な業種の金融機関が、組織の目的として、金融を通じて環境・社会課題を解決するという考え方にに基づき、2021年11月に21社で発足しました。本プロGRESレポートでは、昨年と同様、署名機関が行うインパクト投融資を、「意図」「戦略」はあるが「測定」を実施していない場合（縦軸0）、「意図」「戦略」を持ち、アウトカムを測定している場合（縦軸1）、測定に加えてインパクト創出にかかる「マネジメント」を実施している場合（縦軸2）の3つに分類し、後者2つ（縦軸1+2）をインパクトファイナンスとして残高を集計した結果、署名機関/賛同機関63社(12社非公開)による2023年時点¹のインパクトファイナンス残高総額合計が10兆7,240億円となりました。

レベル1+2 合計 **10,723,999** 百万円

環境



合計 **5,175,701** 百万円

社会



合計 **872,487** 百万円

環境
& 社会



合計 **4,675,811** 百万円

昨年の3兆8,500億円より残高が約3倍に増加している理由は、①インパクトファイナンスの残高が大きい大手金融機関（三井住友銀行、農林中央金庫、日本生命等（残高順））がこの一年で新たに署名をしたこと、②既存の大手金融機関が残高を拡大したこと（三菱UFJ銀行、みずほ銀行、SBI新生銀行、第一生命、かんぽ生命等（残高順））です。また、公開された残高のうち、国内・海外の区分はほぼ半々、アセットクラス別は融資が過半を占めています。

また、レポートでは、高倉透三井住友トラスト・ホールディングス株式会社取締役執行役社長、清水博日本生命保険相互会社代表取締役社長社長執行役員、田代桂子株式会社大和証券グループ本社取締役兼執行役副社長による特別座談会「インパクト志向金融宣言への期待～なぜ今、金融がインパクトを志向すべきなのか～」の報告を掲載するほか、署名機関・賛同機関の個社のインパクト志向金融経営の取り組みを紹介しています。

さらに、2023年7月に策定した中期計画の内容を紹介し、7つの分科会・企画チーム「定義・算入基準」「インパクト測定・マネジメント(IMM)」「ソーシャル指標」「アセットオーナー・アセットマネジメント」

¹ 2023年のインパクトファイナンスは、署名機関/賛同機関それぞれが、算出しやすい月を設定の上算出。

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

「地域金融」「ベンチャーキャピタル」「海外連携」の進捗を掲載しています。

今後の大きな方向性として、インパクトファイナンスの重要な特色であるインパクト測定・管理 (IMM)について、昨年に引き続き先進事例の共有や議論を進めるとともに、各分科会に IMM 企画担当を設置し、分科会横断的な議論を進め、当宣言としての「IMM の基本的な在り方」の文書作成を目指します。地域金融については、融資と投資の接続について議論を深め、地域金融のインパクトファイナンスの新しい在り方について考えていきます。また、海外国外と比較すると、アセットオーナーによるインパクトファイナンスへの投融資の参画参加が少ないことから、さらなるインパクトファイナンス普及の鍵となるアセットオーナーへの取り組みを進める予定です。

 <p>インパクト志向金融宣言 2023 Progress Report of Japan Impact-Driven Financing Initiative</p> <p>2024年1月発行</p>	<h2>インパクト志向金融宣言プログレスレポート 2023</h2> <p>発行日：2024年1月15日</p> <p><目次></p> <ul style="list-style-type: none">- 発行にあたって- インパクト志向金融宣言について- 2023年～2025年の中期計画- インパクト志向金融経営とは- インパクトファイナンスの定義 / 残高- 特別座談会インパクト志向金融宣言への期待 ～なぜ今、金融がインパクトを志向すべきなのか～- 2023年における企画チーム・分科会の活動- 署名機関紹介- 編集後記
---	--

<本レポート掲載署名機関一覧>*2023年9月時点署名機関（五十音順）

アセットマネジメント One 株式会社/特定非営利活動法人 ARUN Seed/ANRI 株式会社/株式会社ウィズ・パートナーズ/株式会社 SBI 新生銀行(SBI 新生銀行グループ)/カディラキャピタルマネジメント株式会社/株式会社環境エネルギー投資/株式会社かんぼ生命保険/一般財団法人 KIBOW/株式会社キャピタルメディカ・ベンチャーズ/九州みらいインベストメント株式会社/京都信用金庫/クラウドクレジット株式会社/GLIN Impact Capital/株式会社クレディセゾン/グローバル・ブレイン株式会社/グロービス・キャピタル・パートナーズ株式会社/株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ(KII)/SIIF インパクトキャピタル株式会社/JP インベストメント株式会社/株式会社シグマクス・インベストメント/株式会社静岡銀行/信金中央金庫/株式会社 ZUU/Spiral Capital 株式会社/スパークル株式会社/住友生命保険相互会社/第一勧業信用組合/第一生命保険株式会社/株式会社大和証券グループ本社/但馬信用金庫/株式会社 taliki/ティール・ロウ・プライス・ジャパン株式会社/株式会社 DG インキュベーション/株式会社ドリームインキュベータ/日本ベンチャーキャピタル株式会社/日本生命保険相互会社/日本 PMI パートナーズ株式会社/農林中央金庫/肥銀キャピタル株式会社/株式会社肥後銀行/肥後銀行企業年金基金/BIG Impact 株式会社/Beyond Next Ventures 株式会社/株式会社ファストラックイニシアティブ/ファルス株式会社/フューチャーベンチャーキャピタル株式会社/プラスソーシャルインベストメント株式会社/株式会社ベンチャーラボインベストメント/株式会社みずほ銀行/株式会社三井住友銀行/三井住友 DS アセットマネジメント株式会社/三井住友トラスト・ホールディングス株式会社/三井物産オルタナティブインベストメント株式会社/株式会社三菱 UFJ 銀行/三菱 UFJ 信託銀行株式会社/ミュージックセキュリティーズ株式会社/明治安田生命保険相互会社/山口キャピタル株式会社/リアルテックホールディングス株式会社/株式会社りそなホールディングス/立命館ソーシャルインパクトファンド投資事業有限責任組合/〈賛同機関〉独立行政法人国際協力機構

「インパクト志向金融宣言」ホームページ：<https://www.impact-driven-finance-initiative.com/>

【お問い合わせ先】 [社会変革推進財団](#) 広報担当 山本 yamamoto.shiho@siif.or.jp / 070 7514 7634